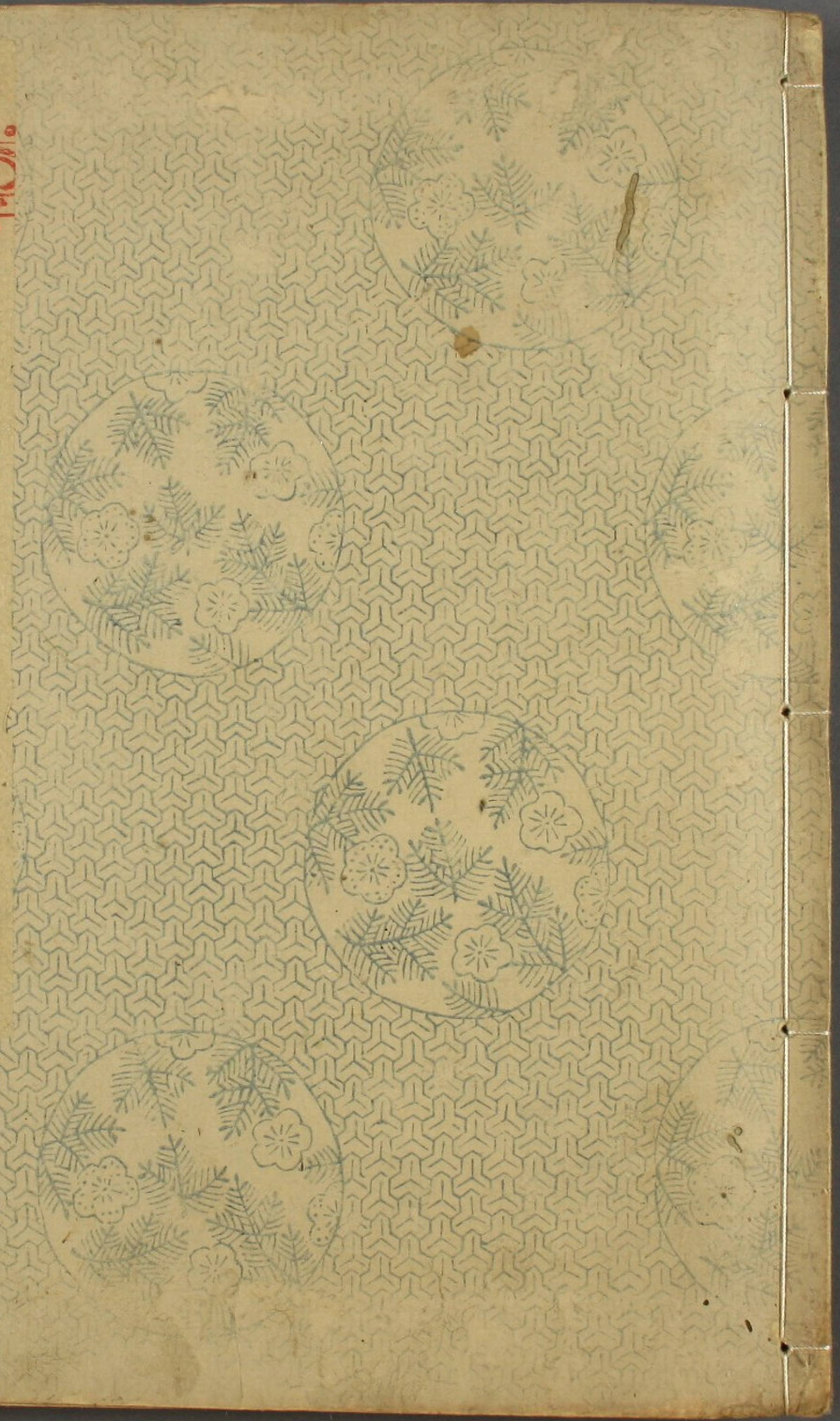
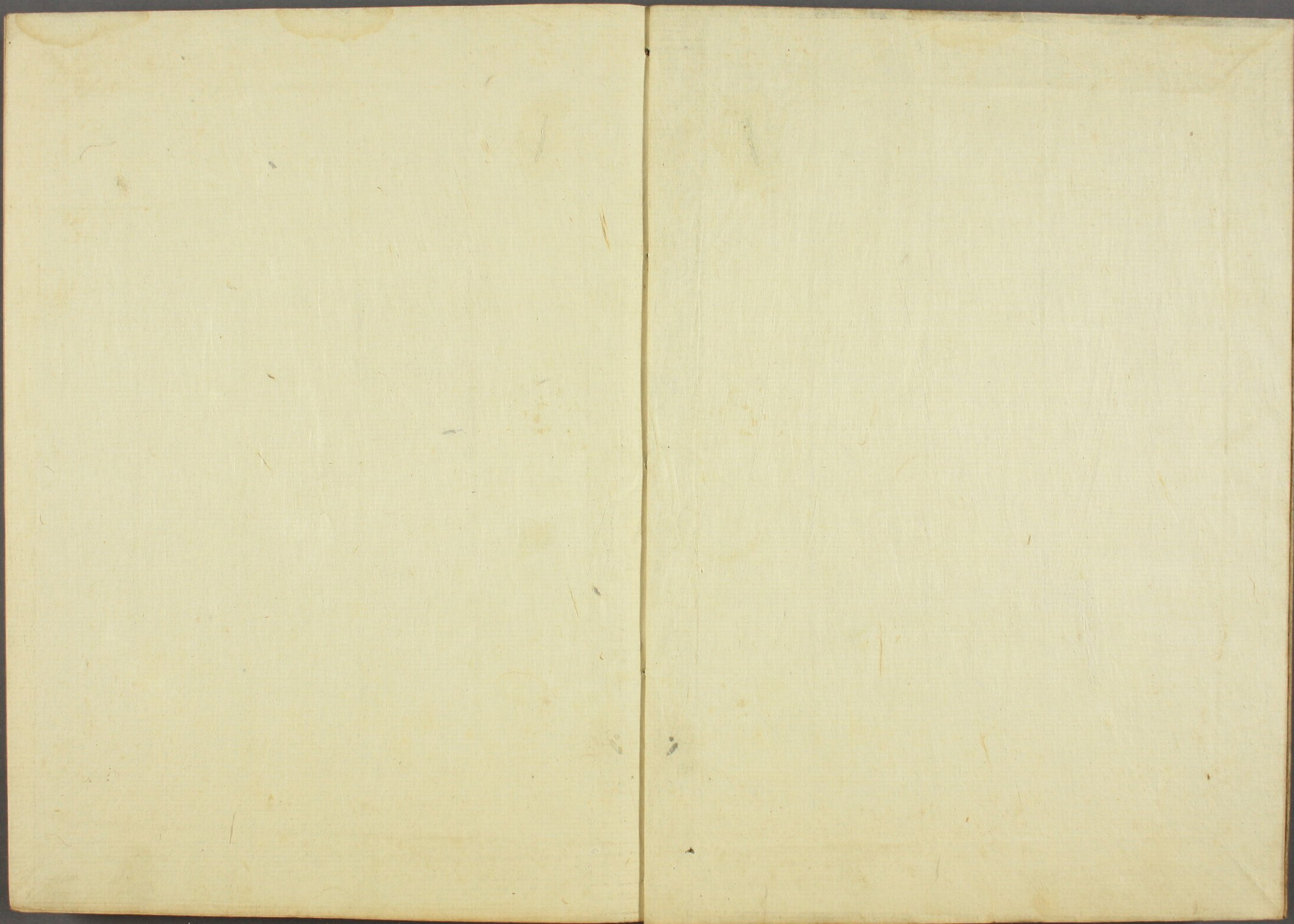




源注拾遺卷第六





源注拾遺卷第六

梅枝

藤末葉

若菜上

同下

柏木

橫笛

鈴虫



梅枝

一 梅の枝

○今梅瑠璃松あり和名之孫恒力切韻

云甄時戰友俗語云器縁謂口邊也甄都岐乃波太也甄七

此之丸もこいももほも器縁とあり此は

器の字状つゝとともいふ(おん)

一 梅の枝

○今梅枝あり和名之孫恒力切韻

其のよみ成しむ。其のよみ

其のよみ成しむ。其のよみ

此今此亦成しむ。其のよみ

一 今此亦成しむ。其のよみ

心ちしむ

に中務集

あに人のよみ成しむ。其のよみ

あに人のよみ成しむ。其のよみ

の今此亦成しむ。其のよみ

亦文女志集に

いしむ。其のよみ

いしむ。其のよみ

一 古方葉集

○今此亦成しむ。其のよみ

いしむ。其のよみ

一 いしむ。其のよみ

細 隆く此又し

字抄 啄木の歌し

○今案ごんハ和名抄調度中服玩具云  
 吐聲字苑云續ハ吐敢反俗音奴合反青而黃也  
 此字あり倭ハ文ハいハ誤あり本言ハ  
 吐敢反ハ音奴合反ハ俗ハ同ハ誤あり本言ハ  
 有ハ小奴合反ハいハつハりハ此字延表式乃中ハし  
 おげハくハんハしハらハりハわハくハらハりハ同ハ腰帶類小云  
 辯ハ帶唐韻云辯ハ蒲華切与櫓同按加良  
 久美  
 織ハ絲ハ為ハ帶也  
 一 とさハんハちハやハまハさハしハさハりハ

○今案

いさハんハちハやハまハさハしハさハりハ  
 いさハんハちハやハまハさハしハさハりハ

一 いさハんハちハやハまハさハしハさハりハ

孟ハらハ海ハにハちハらハわハらハりハ

○今案ちハらハわハらハりハ後ハ居ハありハ一ハ日本ハ他  
 のハ家ハ此ハ小座下城ハらハちハらハりハいハらハりハ  
 純ハ下ハ居ハるハいハらハりハいハらハりハいハらハりハ  
 ちハらハわハらハりハいハらハりハいハらハりハ



あはれは母の心なりとて  
えとまじきおのれを  
おとしりて入るるも  
乃丁此迄までと  
いふは

いふは東は様のお  
おあり信じてお  
いふは東は様のお  
捨親言をいふを  
いふは東は様のお

惟、いふは東は様のお  
いふは東は様のお



夜来樂

一 花〜〜〜花〜〜〜花〜〜〜花〜〜〜花  
夜あり

○今宵 夢のり〜D〜おろ〜んをゆく〜  
いねら〜花〜花〜〜〜いねら〜  
花〜〜〜花〜〜〜花〜〜〜花〜〜〜花  
花〜〜〜花〜〜〜花〜〜〜花〜〜〜花  
〜〜〜Ginn〜〜〜

○今宵

一 花あり〜〜  
○今宵〜〜花〜花〜花〜花〜花  
〜〜花〜花〜花〜花〜花  
花〜花〜花〜花〜花  
花〜花〜花〜花〜花  
花〜花〜花〜花〜花  
花〜花〜花〜花〜花  
花〜花〜花〜花〜花  
花〜花〜花〜花〜花

一 夫交りしはけしむるに恨

○今東の真あり源氏のれは  
印一時丹府のゆがれはるに  
あり一説は丈夫のふ若といふ  
未通女をよむるに純といふ  
と考やして下にゆがれはるに  
かにはしむるに

○今東孔子は持てなふといふ

かゝる傳はる

一 昔のころのころのころ

ら 昔のころのころのころ

思ふに昔のころのころ

○今東のころのころのころ

長く昔のころのころのころ

こゝろのころのころのころ

此結白のころのころのころ

とてはるに昔のころのころ

おやまのな

一

の岸垣はるる

○今東ささきへ申マカ詭コトは

んから詭コト方事日と他并ナラぶ家イに

すししりらるるけけの益津小妻ウ

だり詭コトありしりけけか詭コトありしりけけ

はるるるるるるるるるるるるるるるる

も小中ゆりオト様ヨメ婦メといふるるるるるるるる

とちくやににににににににににににに

えれおしりりりりりりりりりりりりり

りありりりりりりりりりりりりりオト婦メといふ

私オトりりりりりり

一

とちくやににににににににににににに

とちくやににににににににににににに

とちくやににににににににににににに

の今東はににににににににににににオト張メ

から群々たるたてふはくとのくは下  
りて候はる——上下をこに備は程く  
——いふは程とらふはう今もあはら  
らき——まほはく——くは好むく  
——あり候はるは他の宣奈もまはら  
はくはあはらうはれはは——は  
る——思ふはくはまはくははくは  
はくははくはくはくはくはくは

細文帳

常盤の松小らうはる。散あはし

かのうはくはくはくはくはくは

○今葉はあはくはくはくはくはくは  
もにみしあはくはくはくはくはくは  
はくはくはくはくはくはくはくは  
はくはくはくはくはくはくはくは

はくはくはくはくはくはくはくは  
はくはくはくはくはくはくはくは  
はくはくはくはくはくはくはくは





内府を女史けりて  
はも  
は  
又一向不棄  
夫の公の  
近  
内府と

女の女史も  
と  
は  
夫  
は  
は  
は

○菊安の横鼻丸の若わら木本久多  
は  
は  
は  
の

母流布、  
こゝし信、  
系徳、

下葉、

新、  
一、  
一、  
一、

一、  
一、  
一、  
一、

一、

下、  
一、



うし女或は小法師...  
...  
...  
...  
...

一 今...  
...

○今... 伊...

...  
...

世と白人...  
...

一 ...  
...

○今... 権...  
...

一 ...  
...

○今... 権...  
...

...  
...

...  
...

但しこれに禁中礼儀

一 かしら

○今案らるる且見下あり

し

伊智物

天

あ

あ

新出今報下 皇朝の

あ

あ

あ

一

○今案らるる美

あ

之三 又

あ

あ

いづれかへは 換はるしや

一 かりに人の 転々も あり

○今葉つれあふも 色あせし 花の 影  
故に比ふ若くも 一い比ふあ 花若のみ  
いなるも 花の 影の 井の 影の  
一昔の 丈夫も 一い 花の 影の  
い 一い 井の 影の 影の 影の  
い 一い 花の 影の 影の 影の  
花の 影の 影の 影の 影の

花の 影の 影の 影の 影の

い 一い 影

一 花の 影の 影の

い 一い 影の 影の 影の

い 一い 影の 影の 影の 人

○今葉世 花の 影の 影の 影の

妹の 影の 影の 影の 影の

い 一い 影の 影の 影の

若菜上

一 女のあそむるは

孟 けさむの欺態也

後あり

○今葉歌註の註を態とか、終りの

暗化の失格也

一 ささぬら小せむいせなる入つたて

かしげ終り

○今葉は一病の信不真情マコトか、海人

一 さらぬよりのひらきぬあはれ

偽りを美言コトのいふと知人のあはれ

心し言成お無一なるは小傷也

一 中なる初しのりのあはれなる終り終

る初なるあはれ言ふはあはれなる味は

木の葉の心は情かれとてさなぬら

一 ぬらぬらぬらぬら

一 ぬらかぬらぬら

○今葉かぬらぬら朗人あはれなる古今

夫のいれ方かう〜〜〜  
いれ方かう〜〜〜

又いれ方かう〜〜〜

〜〜〜のいれ方かう〜〜〜  
か〜〜〜いれ方かう〜〜〜

一 又いれ方かう〜〜〜

○今按和名抄云鰥夫 秋名云無事  
曰鰥古須反 和名夜 無事 言心 鰥鰥然不寝  
婢魚目恒不閉者 又云秋名云無事曰

寡 和名夜 無事 玉篇云寡或曰嬾 霜反 或曰收也

婦 反 嬾 握 やむをやいめいじ〜〜通せん

し〜〜や〜〜か〜〜男女小り〜〜

い〜〜伊留お〜〜い〜〜い〜〜

い〜〜い〜〜い〜〜い〜〜い〜〜

一 い〜〜い〜〜い〜〜い〜〜

○今按此方いれ方かう〜〜〜

一 中納言いれ方かう〜〜〜

いれ方かう〜〜〜いれ方かう〜〜〜

大やけの酒〜〜り〜〜  
きたるにたれ〜〜た〜〜  
う〜〜れ〜〜

○今東大の〜〜  
ん〜〜

い〜〜

細威勢ら〜〜

ら  
い〜〜

○今東つれ〜〜  
收〜〜

い〜〜  
い〜〜

小松〜〜  
い〜〜

い〜〜  
い〜〜

い〜〜  
い〜〜

い〜〜  
い〜〜

ら集 日本紀

○今東これら〜〜  
い〜〜

い〜〜  
い〜〜

い〜〜  
い〜〜

ごがよのねん

一 ありいじよの

○今案日本紀廿一云善信阿尼等  
謂大臣司出家之途以戒為本願白百濟  
学受戒法

一 ありいじよの

○今案日本紀廿一云善信阿尼等  
謂大臣司出家之途以戒為本願白百濟  
学受戒法

○今案日本紀廿一云善信阿尼等  
謂大臣司出家之途以戒為本願白百濟  
学受戒法

○今案日本紀廿一云善信阿尼等  
謂大臣司出家之途以戒為本願白百濟  
学受戒法

あはれいじよの

○今案日本紀廿一云善信阿尼等  
謂大臣司出家之途以戒為本願白百濟  
学受戒法

○今案日本紀廿一云善信阿尼等  
謂大臣司出家之途以戒為本願白百濟  
学受戒法

一 ありいじよの

○今案日本紀廿一云善信阿尼等  
謂大臣司出家之途以戒為本願白百濟  
学受戒法

しつぱりしつぱりなれど位の前よりしつぱり  
しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり  
○今東金多果実とらふ

東金水記

此水其むかひのりしつぱりしつぱり  
お水しつぱりしつぱりしつぱり

此水しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり  
しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり

しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり

しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり  
此水しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり  
大板水

此水しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり  
あけしつぱりしつぱりしつぱりしつぱり

しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり  
○今東金多果実とらふ  
しつぱりしつぱりしつぱりしつぱり



いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

又報一云法皇もいせの海にたると

いせの海小舟の音きこゆるはれり

先づいせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

いせの海小舟の音きこゆるはれり

一 かくそりいせにりやありしはく

○今按禮記同喪ノ篇云禮義之經非從  
天降非從地出也人情而已矣  
和名申ア云々

けり〜と〜り〜り〜り〜り

り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

一 へ〜り〜り〜り〜り

ら 壁代又防壁

○今按和名抄云釋名云縛壁以席ヲ縛に

著於壁也漢語抄云防多都縛壁も防

壁もしにり〜り〜り〜り〜り〜り〜り

一 ら〜りのり〜り〜り〜り

○今按 日本紀云 弓矢二具弓矢

一 ゆき〜り〜り

○今按しゆゆり他小もり中かたれ〜

てやじゆ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

と〜てあ〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

き〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り

ちりちりちりちり

一 今東千載集新之上末の巻より六十

〇今東千載集新之上末の巻より六十  
おこちりちりちりちりちり

は成る入るを致す下

かたへかたへかたへかたへ

かたへかたへかたへかたへ

かたへかたへかたへ

目々

かたへかたへかたへかたへ

かたへかたへかたへかたへ

一 今東千載集新之上末の巻より六十

かたへかたへかたへ

〇今東千載集新之上末の巻より六十

かたへかたへかたへかたへ

かたへかたへかたへかたへ

〇今東千載集新之上末の巻より六十

かたへかたへかたへかたへ

一 命はつとてなす

○今東命はつとてなす  
らつとてなす  
らつとてなす  
らつとてなす  
らつとてなす  
らつとてなす  
らつとてなす

○今東 万葉がま

らつとてなす

松片はつとてなす

一 ちの身をもつとてなす

ら  
つ

らつとてなす

らつとてなす

○今東 世川がま

於道 意一

讀入

らつとてなす

らつとてなす

此方上句は明記の失儀  
又後撰

信明

りていふはあはれ  
ふりかたはあはれ  
世より下句はあはれ  
に及ぶ

友より音のほろよふ  
の今東 友抄集に

白妙の及ぶはあはれ

友より音のほろよふ

費之集

梅のむすもあはれ

あはれあはれあはれ

行人玉屑小結音の  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ  
あはれあはれあはれ

たのほしきことありて

ふたつはあつたての

○今東古

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

○今東只先ら

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

あつたての

～ 車

～ 車

～ 車

～ 車

～ 車

～ 車

～ 車

～ 車

～ 車

～ 車

○ 今葉

～ 車

～ 車

～ 車

○ 今葉

～ 車

～ 車

～ 車

○今葉

秋の日の葉はもせしむる人か  
ふとらふもさるもあふしむる人か

此方よしほせしむるあれはかきめはら  
くさつら

秋古き葉もふらふしむる秋の夕ぐれ  
ゆらゆらちりちりしむるけり

六條ちち下宮

夏小ちちちもふらふ物か又つら

花をいしむるあつら

あれの世今のちかきつらつらつら  
葉ふのあつらつらつらつらつらつら  
ふ葉にちかきつらつらつらつらつら  
大枝小枝つらつらつらつらつら

出まの園造之祖名は北依都養師  
青葉山つ而立其河下将献天御食  
あつらつらつらつらつらつら

○今葉 ちち葉あつら



秋のあひらきつらきふぶき

も料方ふふと針はなれ

あふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふふふふ

古今

秋はかたきふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

金葉秋

ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふふ

おとろけりかきふふふふふ  
たのむふふふふふふふふふ





あつたふりてはなす

○今葉はなすはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

○今葉はなすはなす

あつたふりてはなす

あつた

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

○今葉はなすはなす

あつたふりてはなす

あつた

○今葉はなすはなす

あつた

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

あつたふりてはなす

孟 萌黄のちの法儀なるものけり  
○今葉萌もなり——らふはあちれ  
唐の本に——葉のちのちのちのち  
久しきにわたりりもたはらひに  
あまのちのちのちのちのちのち  
とほ——のちのちのちのちのち  
ちのちのちのちのちのちのちのち  
葉のちのちのちのちのちのちのち  
柳のちのちのちのちのちのちのち

一 ちのちのちのちのちのちのち  
と

○今葉萌もなり——らふはあちれ  
唐の本に——葉のちのちのちのち

は 次男のちのちのちのちのち  
唐の本に——葉のちのちのちのち

○此の考  
古

長江の春のうららかなるを

かつしやうり流るるを

一 長江の春のうららかなるを

〇今採

一 長江の春のうららかなるを

らてぬらうるを

〇今東世のうららかなるを

おしうららかなるを

のうららかなるを

くの外の本竹のうららかなるを

うららかなるを

外の本竹を採るを

うららかなるを

うららかなるを

うららかなるを

うららかなるを

うららかなるを

一 長江の春の

○今東の響くもの

和名云漢詞切韻

云響

鳥莖反楊氏漢語抄

春鳥也

比須

字義かはりしは長らくも

とよめり

一 さらりりりりりりりりりりり

細 〇今東はらりりりりりりりりりりり

振 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

張 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

〇今東はらりりりりりりりりりりりり

だ 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

も 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

の 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

ち 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

な 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

し 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

い 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

お 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

の 〇今東はらりりりりりりりりりりりり

ひ 〇今東はらりりりりりりりりりりりり













こゝろのこゝろにひらあ〜とてはかおと  
〜とてあまた〜た方もつれいとては  
かゝりつゝはかゝるまの

一 大ゆとあゝ世のた〜とあつるるる  
〜とあゝあゝ

○今う東あ〜と下形あり彼若後力  
朽木かき〜と地〜と水目〜  
たむ〜とあぢらつたは〜とあつら  
〜と〜と〜と

○今按萬葉才二人麻呂ノ毒死之後哀  
慟作哥〜

玉は〜とあゝ人〜とあつら  
〜と〜と

才三巻石田ノ王卒之時山前ノ王哀傷  
作哥〜

〜とあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
〜とあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

一 心あわふあわゆる竹のふ〜



祭祀具云本朝式云十一月辰日宴會  
 其飲器參議以上朱漆椀五位以上  
 葉椀 和語云 之保天 之れ小水椀(多)のう小椀  
 に尋ぬく——下に尾をたかまきしとせん  
 のを——と小水  
 之れ小水椀にとも上しも次者らりて  
 椀か——  
 ちとひ

○今葉御者 オムウラヒ 日本紀

一 之れらぬしひいぬ

○今葉あしきいねぬらうとひいしとに  
 やいしとにらうとにらう

新日本紀

一 いりねの志まけ

新日本紀

○今葉日本紀小水椀

一 一人方所あらうらひ

○今葉 ニホシ シノヒ 日本紀上 廿八





一 收しきりて存

細 二月十九日

○今東にきちの月廿九日 外伝日  
— 心むれいせのちりて 續古き書

三 故上是則

林く結しきりて存のしりて

あひしりて存のしりて

月新くよおのしりて存のしりて

しりて存のしりて存のしりて

はしりて存のしりて存のしりて

兼に法教王

しりて存のしりて存のしりて

おしりて存のしりて存のしりて

此二多明能あり 物執撰意みよ

殷家門元大補

結人のしりて存のしりて存のしりて

しりて存のしりて存のしりて存のしりて

しりて存のしりて存のしりて存のしりて







ら

○今新古今を新し、守是法親と

か

ら

の

ら

の

ら

の

ら

ら

ら

ら

の

ら

か

の

ら









あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

横政と政大下

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

あはれとてうらやまのしらあはれとてうらやま

○今此其象小狂言の——  
——  
害乃多多を——  
の惡のとほ——  
一不動も入印のちひらりと日守  
と——  
ら——  
交心をか——

○今按不動尊立印儀軌云復次觀

自身成ニ本尊形像以真言文字布  
身請支分一百由旬内所有難調  
御鬼神所持者皆悉能散懷又正  
報盡者能延テ六月住

一い——  
○今東女久く絶以——  
力をかりり  
一又い——

抄又戒の少弥戒不友十戒  
○今東地注語又戒在家人の優劣  
寒憂染夷力戒津川の優劣寒  
優劣夷ハ八森戒と云りのをのり  
十戒と少弥戒と云り

一 おのれむらとすしけさ  
の今東 抄撰集巻三小

志大下

あひはしと入くす  
らやあまや凍し

一 じ林つらちち

○今東しけあつたわ  
あま

一 ちあまあま  
あま

○今東あまあま

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

細指はあつていへばあつていへば

○今東はあつていへばあつていへば  
おりにあつていへばあつていへば

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

半如くあつていへばあつていへば  
~~~~~

○今東はあつていへばあつていへば  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

友の口もあつていへばあつていへば

~~~~~

○今東はあつていへばあつていへば

~~~~~

~~~~~

~~~~~

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

いんげんがうら

ふふ成俾ふに事落し

柏木

一 去いてうけんおれやん

○今葉父母小しけなはん事る命を  
しむく又お孝の徳を言らるる  
まいこたうんちとてはま  
かろちおしおのちり

細  
松政しとあふし  
お  
○今葉ふふおふふ

さいばけん

細流乃亭流ハ不叶

一 之れも十年ハ枯ヤ

ハ 大悟小町

くもすゝめあのみ

流也十年ハ枯ヤ

○大悟乃回恨歌ノ地也

り入るも丹波集小波乃

は流

をりよ

はり

はり

一 かの

細

○今東地

は

た

一 かの

○今東北方ちりせりあり

かほのまのまをむしりか

福ちりき徳あり論者にいひ

○今東北方ちりせりあり

かほのまのまをむしりか

福ちりき徳あり論者にいひ

○今東北方ちりせりあり

かほのまのまをむしりか

福ちりき徳あり論者にいひ

○今東北方ちりせりあり

かほのまのまをむしりか

福ちりき徳あり論者にいひ

○今東北方ちりせりあり

かほのまのまをむしりか

福ちりき徳あり論者にいひ

○今東北方ちりせりあり

かほのまのまをむしりか

福ちりき徳あり論者にいひ



わがまゝに今にたれ

一 おかたの事なりし

○今東に旅日記

いそいで(いそいで)ありし

しつら(しつら)ありし

一 くにわたりし

盃の事なりし

○今東に旅日記の

らまゝに(らまゝに)ありし

やまの事なりし

長に旅日記

貴之が事に

昔に(昔に)ありし

海に(海に)ありし

一 事なりし

○今東に旅日記

一 事なりし

らまゝに(らまゝに)ありし

一 女にたつとてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

〇今あはれみちりてあはれみちりて

一 世にたつとてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりてあはれみちりて

一 〇今あはれみちりてあはれみちりて

あはれみちりて

〇今あはれみちりてあはれみちりて

水至清則無魚

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

正いふ信いふみいふりいふ信いふみいふ

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

正いふ信いふみいふりいふ信いふみいふ

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

正いふ信いふみいふりいふ信いふみいふ

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

正いふ信いふみいふりいふ信いふみいふ

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

正いふ信いふみいふりいふ信いふみいふ

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

正いふ信いふみいふりいふ信いふみいふ

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

正いふ信いふみいふりいふ信いふみいふ

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

正いふ信いふみいふりいふ信いふみいふ

○今葉女いふちりりいふ信いふみいふ

一 ありまは柳のちり〜さむら〜

うらやま〜さむら〜

こらち〜おんち〜

一 おやのけ〜さむら〜

○今東親方お〜りも舞い〜

息〜

一 ちり〜さむら〜

ちの神方お〜り〜

〜さむら〜

細目

○今東古々果に出釣た〜

七小

殊放者お〜り〜

〜さむら〜

牛十に

殊落者お〜り〜

〜さむら〜

麦家お〜り〜

あひしゆぬ能くタニカウラマツハ玉挂珠者ぬ

さくにあつて格一

くねのふまや一かも一かみふちりす  
倍ふらつてゆふもさつちりりりり  
細拍あつたか一のあつて枝あま  
らつね拍の倍ふちりりりりり  
つたさ

○今果珠は計らまやあつて枝  
さつちあつたか一のあつて倍はは拍あ

にちの連地さつちまらつて  
さつちあつて中つてさつちあつて  
ふあつたか一のあつてさつちあつて  
あつて拍あつたか一のあつてさつちあつて  
さつちあつたか一のあつてさつちあつて

今果珠

さつちあつたか一のあつてさつちあつて

さつちあつたか一のあつてさつちあつて

横笛

一 夕吹しれ入かんのいからるるはれ  
— ちと志こらぬよ

○今東世吹しれの華大縁おね—  
西の野を小あぢもるりひふの心—  
くほりおと舞く物りこいにいひま  
んらん— かに丸赤あ— のうた母は  
らぬぬとらり又おね—

一 うねうも忘れぬしられ竹のよは控り  
いふおとささき

○是もた— ち吹はぬ— ちりちり  
去けりともいひる— ちりちり  
いしりられ赤れこの控りぬと入を  
らん— 絶えぬ— ちりちり  
も— ちりちり— ちりちり  
ちりちり— ちりちり— ちりちり  
○今東とらあしちの二の三のちりちり

一 とさふに君をさしあはれあて給ふ  
ら スタキ 及集万系 潜 同上

○今東 潜 万系 万系 万系 万系  
いさかー 隠 又 大 小 万系 万系  
いさかよー 万系 万系

○今東 万系 万系 万系 万系 万系

いさかー 万系 万系 万系 万系  
いさかー 万系 万系 万系 万系  
いさかー 万系 万系 万系 万系  
いさかー 万系 万系 万系 万系

細川家

いさかー 万系 万系 万系 万系

いさかー 万系 万系 万系 万系

○今東 万系 万系 万系 万系 万系  
いさかー 万系 万系 万系 万系

細川家

いさかー 万系 万系 万系 万系

いさかー 万系 万系 万系 万系

○今東 万系 万系 万系 万系 万系

物いおもしろいこと六帖并 續古今  
意いおもしろいこと

龍虫

一 法華の十

○今東法華の曼荼羅の観音儀軌

本堂三経翻經に  
弘法大師傳來に

梵陀世は美と壇と翻寸多義

を念む所多くは梵陀と用ゆる當

麻曼荼羅を信小のの曼荼羅と

信小のの曼荼羅に信小のの曼荼羅

信小のの曼荼羅に信小のの曼荼羅



中巻に云ふ浄土の愛おむべきありあり  
の一事也曼茶羅に云ふ四種のたねあり  
仏弁の形像とくくの大曼茶羅なりなり  
おめ来りて小鉢文殊菩薩の観あり  
ついで三ノ耶曼茶羅なり 三ノ耶小弁  
物乞の義ありなり同と好む人の書と教  
しもふ成好む人の書と解ありあり  
くおれく所得の法と物乞とも  
者しるありあり梵字の書と書

をい法曼茶羅のついで小羯磨  
曼茶羅といふのと小通寸と云  
ゆや一お成創と佛像と好むと成  
儀事業成就のついで羯磨ノ曼  
茶羅といふ羯磨と云ふは事業と翻  
とありあり

一 けしきのほら  
○今東 狭侍 菩薩 日記  
一 徳い六たのえとのついで

ひき

○今東定楽の母の音は「あゝ」  
法皇御六給の「あゝ」は「あゝ」  
「あゝ」は「あゝ」  
「あゝ」は「あゝ」

けしけし

に討又擧

○今東定楽の母の音は「あゝ」

ふしのねりり

○今東定楽の母の音は「あゝ」

きくきく

ゆきゆき

○今東定楽の母の音は「あゝ」

しつ和名抄云詠文云唇吻上音

和比留下音粉  
久知依波良  
くちしきう

くは辨舌あり候なり

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

○今東より西はさしくさやう

延喜式第八大段祭祝詞云取葺計

草ノ罌收古語云しつりこれかき信ふ

いとりりくま居たり成たりしきか

つりこむ小糸のとれりやうりやう地

まよとらうお移入らうに日一似し

一 大この林をりしありあしとらり捨

しつりまゆ虫れし

○今東秋は海女乃をのこまうり

らふまらふらふあつひ大かあつあつ海女

のいふくまむいむむらうりしはたむら

海女ありしあつあつあつあつあつあつ

一 むりまらむらむらむらむらむらむらむら

らあつあつあつあ

○今東ららららはかこのあつあつあつあ

るらららららららららららららららら

ららららららららららららららららら

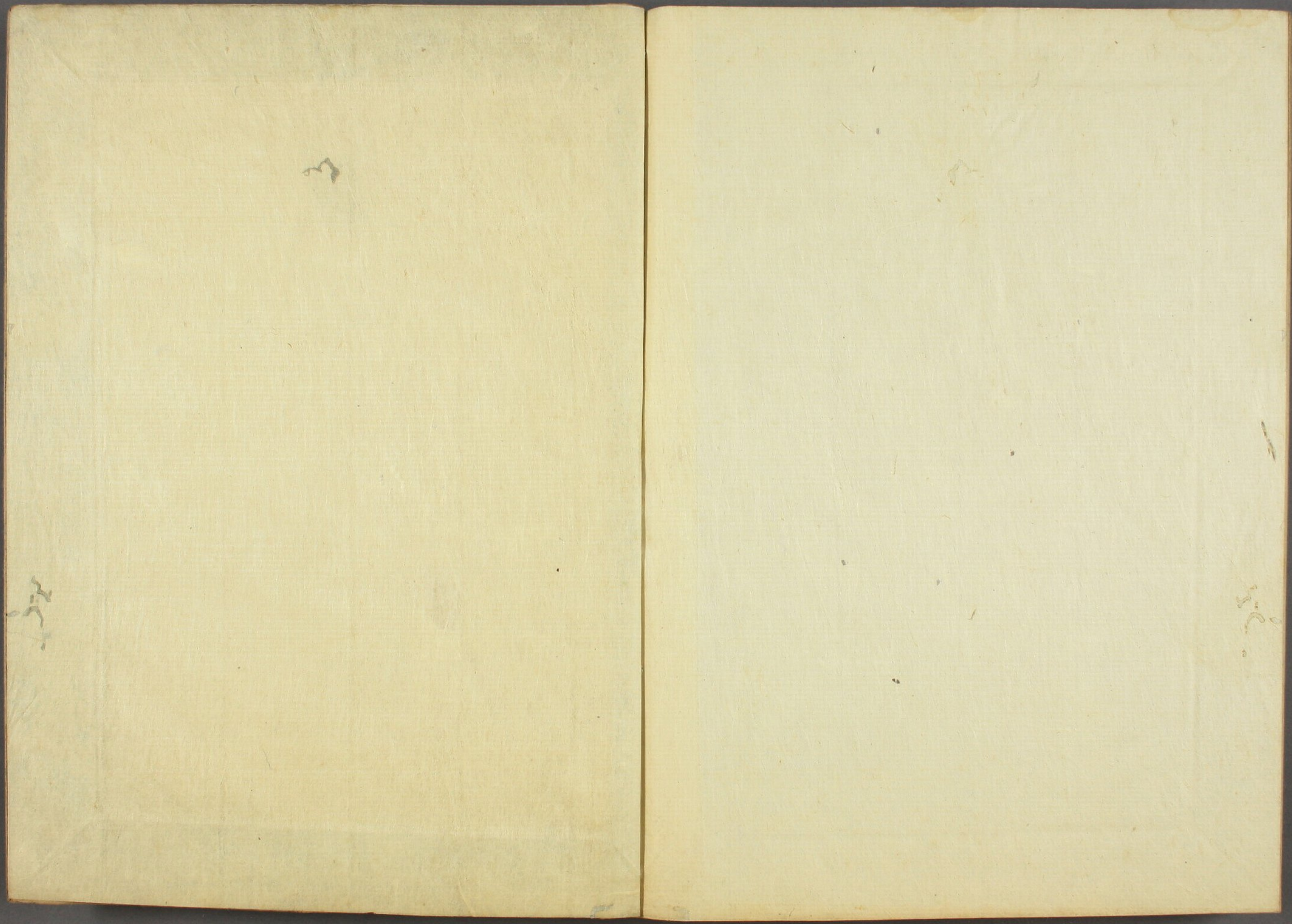
りりりり三東女(後後りりりりりりりり

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

一  
心

細  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

○  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~  
~~~~~



3

257

258

